

実習先における評価と学生の性格特性の関係

○池田昭子・齋藤顕子・清水益治
(奈良保育学院)

教育職員養成審議会は、答申「養成と採用・研修との連携の円滑化について」において、養成・採用・研修の各段階における教員の資質能力形成にかかる役割分担の重要性を指摘している。これを保育職一般に当てはめれば、保育者養成校と保育現場は保育者に求められる資質能力とそのレベル（評価の基準）について共通理解をしておく必要があると言える。

しかしながら、現実には、養成校の教員の間では、「実習先からいただく評価は、実習園や施設による違いが大きいのので、当てにはならない」と繰り返し言われてきた。確かに、ある実習園（施設）では、すべての実習生に対して最高の評価を下さることがある。また、自信を持って送り出した学生に対して、低い評価を返してくださり、学内で指導する側と学外で受け入れる側で視点の違いを感じることも多々ある。さらに、大数研究という目で、実習の事前指導でよい成績を修めた学生とそうでない学生の実習成績を比較したり、日頃の生活態度が良好な学生とそうでない学生の実習成績を比較した際に、安定した差が得られにくいのも経験上事実である。

ここで「当てにならない」に関しては2通りの考え方ができる。1つはレベルの不一致である。例えば、養成校側が、ある学生が非常に積極的であると考えていたとしよう。しかしその学生の積極性のレベルが実習先から見て標準以下であるならば、低い評価になる。もう一つは内容の不一致である。養成校が考える積極性と保育の現場が考える積極性が異なるかもしれない。いずれにしても、それを調整しない限り、養成校としては理想の保育者像を実習でいただく評価を通して学生に教えることが困難になるであろう。ではどのように調整すればよいのであろうか。本研究はこのように考えて、実習先における評価と学生の性格特性（本研究では性格特性を流動的、可変的なものとしてとらえている）との関係を明らかにしようとした。

従来のように、個々の実習先の評価をそのまま用いたのでは、実習園（施設）による違いが大きくなる。そこで本研究では、学生がすべての実習先で受けた評価の素点を合計した値を算出し、それが高い学生と低い学生の性格特性を比較した。

方 法

調査対象 N 保育専修学校平成8年度入学生62名（男子5名、女子57名）と同平成10年度入学生51名（男子6名、女子45名）の合計113名。

調査内容 ①実習成績 N校では、卒業までの2年間に、保育所で2週間、児童養護施設で10日間、幼稚園で4週間（前期2週間、後期2週間）、知的障害児（者）施設で10日間の実習を学生に課している。図1はN校が保育所保育実習と幼稚園教育実習で、図2は児童養護施設実習と知的障害児（者）施設実習で、それぞれ用いている評価表の一部である。どちらの実習用も人物人柄、態度服装、研究意欲、記録文章、指導技術の5つの領域についてそれぞれ5段階で評定されている。評価の視点は保育技術と指導技術の2つの領域をのぞくと全く同じものである。この2つの領域も「技術」としてくることができる。そこですべての実習に関して、実習先からいただいた評価の得点を領域ごとに合計し、各領域の合計得点とした。

なお、幼稚園における実習では、前期と後期で同じ園に実習にいくので、他の実習との重みづけを考慮して、前期の成績のみを採用した。

性格検査 平成8年度入学生は入学直後に、同10年度入学生は後期の授業開始直後にY-G性格検査を実施した。

結果と考察

各領域とも5点満点なので、4つの実習先（保育所、児童養護施設、幼稚園、知的障害児・者施設）から頂いた合計得点は、それぞれ4点から20点までの間に分布する。総合評価も「秀」を4、「優」を3、「良」を2、「可」を1点とし、合計点を算出した。そこで、この合計点も4～16点の間に分布する。これらの合計得点が高い者から約25%を高群、低い者から約25%を低群とした。各群の得点の範囲は、人物人柄が高群が17～20点、低群が9～14点、態度服装が同じ順に16～19点と8～13点、研究意欲が15～18点と7～11点、記録文章が15～18点と10～12点、技術が15～17点と7～12点、総合評価が12～15点と5～9点であった。なお同点の者を含めたり、除いたりしたので、領域ごとに人数は異なっている（詳細は表1参照）。

高群と低群のY-G性格検査の素点の平均を示したものが表1である。t-検定の結果、有意差があった数値の間には不等号を示した。

態度服装の領域では、O、Ag、R、Aの特性に関して、いずれも高群の方が低群よりも平均値が高かった。好奇心旺盛（Ag、R）で多弁（R、A）、活動的（Ag、R、A）であることが積極性に、信念の強いこと（O）が責任感に結びついたのかもしれない。このように考えるならば、実習先から頂く評価は単なるレベルの違いであると言える。

技術の領域では、Iの特性に関して低群の方が高群よりも平均値が高く、Sの特性に関して高群の方が低群よりも平均値が高かった。保育所や幼稚園の実習ではピアノの技術が特に求められることがある。そのため実際に高群の学生の方が低群の学生よりも、ピアノに関して自信があった（i）のかもしれない。また、高群の学生と低群の学生の間には技術的には大きな差が

ないと仮定しても、低群は自信がないため（I）に、その技術を見せることができず、高群は自己顕示欲が旺盛（S）なためにそれを見せることができたのかもしれない。いずれに場合にせよ、評価の内容としてはある程度あっていると考えてよいであろう。

総合評価はAとSの特性に関して、高群の方が低群よりも平均値が高かった。AとSは集合因子として、集団の中での行動力を示す主導性因子である。ある程度リーダーシップをとれることが実習では必要であることが示唆される。

本研究では、人物人柄、研究意欲、記録文章に関しては、レベルの不一致か内容の不一致かについて明確な結論を出せていない。しかしながら、少なくとも態度服装と技術の領域に関しては、養成校と保育の現場で、評価の基準に関する調整が必要であると結論づけることはできるであろう。

評価項目		評価 数字に○を付けて下さい					備考・ 特記事項等
人物人柄	礼儀・言葉遣い・挨拶・誠実さ・明るさ	5	4	3	2	1	
態度服装	積極性・協調性・責任感・規律・身なり	5	4	3	2	1	
研究意欲	研究心・事前の準備 問題意識・質問回数	5	4	3	2	1	
記録文章	実習ノートの記述・整理・表現力・考察	5	4	3	2	1	
保育技術	遊びや音楽の指導・生活指導・創意工夫	5	4	3	2	1	
総合評価		秀 優 良 可					

図1. 保育所実習と幼稚園実習評価表（一部）

評価項目		評価 数字に○を付けて下さい					備考・ 特記事項等
人物人柄	礼儀・言葉遣い・挨拶・誠実さ・明るさ	5	4	3	2	1	
態度服装	積極性・協調性・責任感・規律・身なり	5	4	3	2	1	
研究意欲	研究心・事前の準備 問題意識・質問回数	5	4	3	2	1	
記録文章	実習ノートの記述・整理・表現力・考察	5	4	3	2	1	
指導技術	児童の把握、世話・学習、生活等の指導	5	4	3	2	1	
総合評価		秀 優 良 可					

図2. 施設実習の評価表（一部）

表1. 実習評価別の平均Y-G性格検査得点

性格特性 ¹⁾	人物人柄		態度服装		研究意欲		記録文章		技術		総合評価	
	高 (33) ²⁾	低 (27)	高 (37)	低 (29)	高 (22)	低 (20)	高 (27)	低 (29)	高 (25)	低 (36)	高 (33)	低 (26)
D 抑鬱性大	12.8	11.8	12.3	11.1	14.0	12.3	13.7	11.3	12.3	12.2	13.6	12.1
C 気分の変化大	13.0	11.9	11.4	10.8	11.8	11.8	11.0	10.9	12.0	12.2	11.4	11.7
I 劣等感大	11.6	12.4	10.4	11.9	12.5	13.2	11.9	12.1	11.2	13.6	11.3	12.3
N 神経質	11.6	11.7	10.6	10.9	11.9	12.0	11.4	10.2	10.7	11.8	11.1	10.9
O 主観的	11.6	11.0	11.4	9.2	12.2	10.1	11.4	9.9	10.9	9.9	11.5	9.6
Co 非協調的	8.5	9.1	8.5	8.7	9.2	9.9	8.9	9.1	8.0	9.0	8.6	9.1
Ag 攻撃的	12.0	9.8	12.4	9.3	11.4	10.6	11.1	10.6	11.2	10.7	11.5	10.3
G 活動的	11.9	11.4	11.9	12.0	11.1	10.7	11.1	11.4	11.2	10.8	11.8	10.7
R のんき	14.3	13.5	14.8	12.9	13.5	13.8	12.7	14.1	13.8	13.3	13.7	12.9
T 思考的外向	8.9	9.3	9.7	10.3	8.5	9.8	8.5	10.1	10.1	8.9	9.4	9.5
A 支配性大	10.9	9.4	11.0	8.7	10.0	8.1	10.3	8.9	9.4	8.5	11.0	7.9
S 社会的外向	13.4	11.6	13.5	11.8	13.4	11.2	13.2	11.7	13.6	11.2	13.4	10.1

1) 高得点ほど各性格特性の傾向が強くなる

2) かつこ内は人数